

CPSによる制御理論の融合技術に関する調査専門委員会 設置趣意書

産業計測制御技術委員会

1. 目的

PID制御の産業応用の歴史は長く、現在においても汎用調節計に代表される製品において主要な制御則として利用されている。一方で、PID制御器のパラメータ調整法や制御性能の評価手法に関して、産業界においては依然として改善の余地があると考えられており、産学の多くの研究者によって継続的に検討が続けられている。

一方、産業界では生産性向上、品質向上、予兆保全などを目的に、制御システムのデータを活用した制御の高機能化や新たな価値創造が期待されている。特に、CPS (Cyber Physical Systems) は、IoT (Internet of Things), IoP (Internet of People), IoS (Internet of Service) から構成されているため、データを活用する制御理論や機械学習理論において、ヒューマンファクタの考慮や、制御系設計のMBD (Model Based Design) との融合技術のさらなる発展が期待できる。制御技術とその他の技術、さらにベンダ・ユーザ間の役割分担や連携方法に関して議論を行い、現場では何が問題となっているかを認識した上で制御理論研究を展開することが重要である。

そこで、本委員会では産学の制御・ロボット関連の研究者、開発者、技術者が集まり、CPSによる制御技術に関する最新動向ならびに現実の諸問題を明らかにして、制御技術の発展につなげることを目的としている。

2. 背景および内外機関における調査活動

本委員会は、2017年12月～2019年11月の2年間に設置された「IoTプラットフォーム上の制御技術に関する調査専門委員会」の後継委員会として位置付けられる。前委員会では委員会8回、研究会4回、産業応用部門大会のシンポジウム2回(2018年, 2019年)、自動制御連合講演会 オーガナイズドセッション2件(第61回, 第62回)を開催し、産学から集まった多彩なバックグラウンドを持つメンバーで活発な意見交換を行った。この調査活動の結果、産業界におけるPID制御の高機能化、ロバスト制御、適応・学習制御、ハイブリッド制御などの現代制御理論とロボット制御技術の融合、バイオ系など複雑系への制御技術の応用に関して、産業界におけるニーズ・重要性が明らかとなった。一方、本格的な産業応用に向けて、数々の解決すべき課題が山積していることも分かった。特に、複数の企業が関係するビジネス環境では、役割分担や連携方法に関しての問題が明確になった。

3. 調査検討事項

- (1) 最新の先端制御技術(特に、CPSによる制御システムのデータ活用技術)とその動向について整理し、産業応用への可能性について調査検討する。
- (2) 産業界におけるPID制御、ロバスト制御、適応・学習制御、ハイブリッド制御の応用事例、問題点およびニーズについて調査する。
- (3) 産業界におけるロボット技術、バイオ系など複雑系への制御技術の応用に関する問題点およびニーズについて調査する。

4. 予想される効果

本委員会は、制御理論研究者と現場技術開発者の協力や交流によって、先端制御技術やロボット技術の実用化を促進することを目的としており、以下の効果が期待される。

- (1) 産学研究者の共同・受託研究のための活動機会を提供する。
- (2) 産業界における先端制御技術に関するニーズを分類・整理し、理論研究と産業界ニーズとのミスマッチを改善する。
- (3) 制御理論研究の指針を示し、制御理論による社会貢献の活性化を促す。

5. 調査期間

令和2年(2020年)2月～令和5年(2023年)1月 (3年間)

6. 委員会の構成(職名別の五十音順に配列)

職名	氏名	(所属)	会員・非会員区分
委員長	平間 雄輔	(群馬高専)	会員
委員	秋山 岳夫	(明電舎)	会員
同	荒木 望	(兵庫県立大学)	非会員
同	石井 千春	(法政大学)	会員
同	板宮 敬悦	(防衛大学校)	会員
同	大西 義浩	(愛媛大学)	会員
同	大森 浩充	(慶應義塾大学)	会員
同	沖 俊任	(福山大学)	会員
同	金江 春植	(福井工業大学)	会員
同	川路 茂保	(システムインテグレーション研究所)	会員
同	木下拓矢	(広島大学)	会員
同	小谷 齊之	(明治大学)	会員
同	佐藤 孝雄	(兵庫県立大学)	会員
同	三平 満司	(東京工業大学)	会員
同	鈴木浩司	(徳島大学)	会員
同	申 鉄龍	(上智大学)	会員
同	田中 幹也	(明治大学)	会員
同	田中 政仁	(オムロン)	会員
同	田中 雅人	(アズビル)	会員
同	中荃 隆	(九州工業大学)	会員
同	長縄 明大	(秋田大学)	会員
同	南野 郁夫	(宇部工業高等専門学校)	会員
同	橋本 誠司	(群馬大学)	会員
同	濱根 洋人	(工学院大学)	会員
同	広津 鉄平	(エヌエスアイテクス)	会員
同	藤澤 正一郎	(徳島文理大学)	会員
同	増田 士朗	(首都大学東京)	会員
同	松永 信智	(熊本大学)	会員
同	水野 直樹	(名古屋工業大学)	会員
同	水本 郁朗	(熊本大学)	会員
同	宮崎 一善	(東邦電子)	会員

同	武藤 康彦	(上智大学)	会員
同	山中 理	(東芝)	会員
幹 事	萬田康博	(東邦電子)	会員
幹 事	藤井 高史	(オムロン)	会員

7. 活動予定

委員会	12回 (4回/年)
研究会	6回 (2回/年)
国内学会での企画セッション	6件 (2回/年)

8. 報告形態

技術報告をもって成果報告とする。

9. 活動収支予算

収入	委員負担金	0円 (会費は徴収しない)
	繰越金	78,741円 (前委員会からの繰越金)
支出	諸謝金	20,000円
	通信費運搬費	58,741円

※ 活動予算のうち繰越金については、前委員会「IoT プラットフォーム上の制御技術に関する調査専門委員会」の藤井高史委員長より引き継いだ繰越額を予算に充てる。